



岡山県内経済情勢報告

令和6年11月7日

財務省中国財務局
岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 向井
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善のテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	改善のテンポが緩やかになっている	

設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向が高まる中、衣料品などが低調なことから前年を下回っている。猛暑を背景に、コンビニエンスストア販売は飲料などが、家電大型専門店販売はエアコンなどが好調なことから前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか、日焼け止めなどの夏物商品が好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、南海トラフ地震臨時情報の発表に伴い、防災用品などの需要が高まったことから前年を上回っている。乗用車販売は、小型乗用車が増加しているものの、普通乗用車及び軽乗用車が減少していることから前年を下回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 衣料品や食品などを中心に購買点数が減少傾向にあり、節約志向の高まりが感じられる。(百貨店)
- 消費者の節約志向は継続しているが、お盆などに人が集まる機会が増えることによって、寿司やオードブルなどのごちそうメニューや、防災意識の高まりから飲料水や米などの備蓄用商品が好調だった。(スーパー)
- 猛暑の影響で飲料やアイスクリームが好調だった。また、お手頃感のあるおにぎりなどが好調なものの、物価高による節約志向の高まりから弁当などの高単価商品が買い控えられている。(コンビニエンスストア)
- 猛暑により夏物商品である日焼け止めや制汗剤が好調だった。また、地震への備えとして水や缶詰などの販売が伸びたほか、マスクを外す機会が増加したことでスキンケア用品などが好調だった。引き続き、新規出店効果もあり、来店客数は増加している。(ドラッグストア)
- 南海トラフ地震臨時情報の発表に伴い防災意識が高まり、突っ張り棒などの防災用品のほか発電機などが好調だった。また、猛暑により冷房用品が好調だったものの、物価高で節約志向が高まっていることから客数は減少している。(ホームセンター)
- イベントなどの商店街活性化の活動により人流は増加し、コロナ禍前を上回っているが、足元では猛暑の影響などにより緩やかに減少している。今後もイベントの開催方法の工夫を継続することにより、売上増加に期待している。(商店街)
- 高価格帯商品の買い控えなど節約志向がみられるものの、お盆などには高価格帯商品の購入も見られ、売上は増加し、コロナ禍前の水準に回復している。(専門店)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送用機械は、自動車で半導体の供給制約が和らいでいることに加え、造船で新規受注の獲得もあり横ばいとなっている。化学は、高機能樹脂などの需要が堅調なことから増加している。汎用・生産用・業務用機械は、国内外の需要が堅調なことから増加している。電気機械は、在庫調整の進展に伴い、スマートフォン向けなどの需要が回復していることから増加している。鉄鋼は、海外向けが低調であるものの、国内向けでは輸送用機械などの需要が堅調であることから横ばいとなっている。

このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 半導体の供給制約の影響が和らいでおり、計画に基づいた生産を継続している。(自動車)
- 猛暑や台風の影響により業務効率が下がったものの、新造船の引き合いが続いている。(造船)
- 国内外の需要に弱い動きがみられるものの、自動車向けなどに使われる高機能樹脂などの需要が堅調である。(化学)
- 堅調な受注を背景に一定数の受注残を抱えており、フル生産が続いている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 昨年の状況と比較すると、在庫調整が進み、スマートフォン向けなどの需要が戻ってきている。(電気機械)
- 中国での鋼材需要の低迷などによる影響を受け、海外向けが減少傾向にあるものの、国内向けでは、輸送用機械などの需要は安定している。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「改善のテンポが緩やかになっている」

新規求人数は前年を下回っており、有効求人倍率は緩やかに低下している。企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年7-9月期）の従業員数判断 BSI でみると、「不足気味」超が続いている。このように、雇用情勢は、改善のテンポが緩やかになっている。

- 小売などで求人の減少幅が縮小するなど、回復の兆しがみられている一方で、物価高による収益圧迫を主因に、建設や飲食などで求人が減少していることから、新規求人数は前年を下回っており、有効求人倍率は緩やかに低下している。（職業紹介）
- ドライバーが恒常的に不足する中、採用を進めているが、退職者も多くいるため、人手が足りていない。（運輸、郵便）

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 製造業では、計画の見直しにより化学などで減少となるものの、生産能力の増強投資により自動車、食料品などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、前年度の大型投資の反動により、運輸、郵便などで減少となるものの、店舗の新設や改装により、小売、金融、保険などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。

- 顧客の多様化するニーズに応じた、新製品の開発や品質向上のための設備投資を予定している。（化学）
- 既存設備の更新及び生産能力増強の設備投資を予定している。（食料品）
- 生産能力及び開発体制増強のため、工場の増設を予定している。（繊維工業）
- システムの更新及び新紙幣に対応するための設備投資を予定している。（小売）
- 前年度に新設物流拠点の大型投資を行ったが、今年度は維持更新が主な内容となっている。（運輸、郵便）

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 製造業では、原材料費の上昇により木材・木製品などで減益見込みとなるものの、価格転嫁を進めている化学や海外からの需要が好調な生産用機械などで増益見込みとなっている。
- 非製造業では、新規出店効果により小売などで増益見込みとなるものの、人件費などが上昇している卸売や再開工事に伴う賃料などの減少により不動産で減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

- 企業の景況判断 BSI は、「上昇」超に転じている。なお、翌期は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅や貸家などが減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出は、品目別では鉄鋼などが減少しているものの、石油製品や化学製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、北米などで減少しているものの、アジアや西欧などで増加している。

岡山県内経済情勢報告

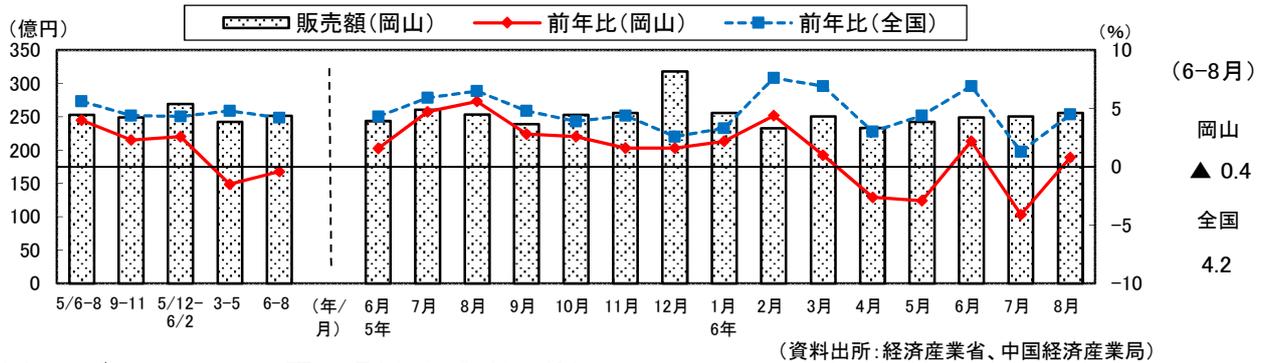
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費.....	1
2.	生産活動.....	3
3.	雇用情勢.....	4
4.	設備投資.....	5
5.	企業収益.....	5
6.	企業の景況感.....	5
7.	住宅建設.....	6
8.	輸出.....	6

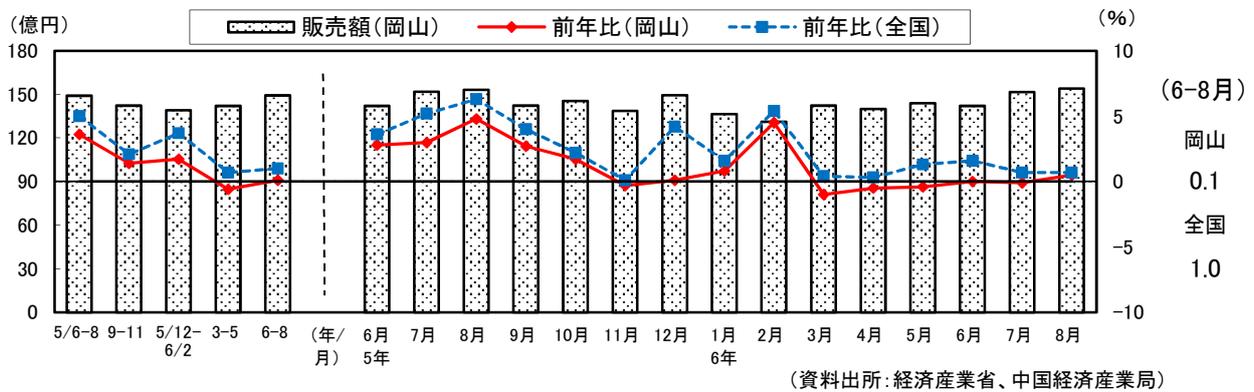
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費 緩やかに回復しつつある

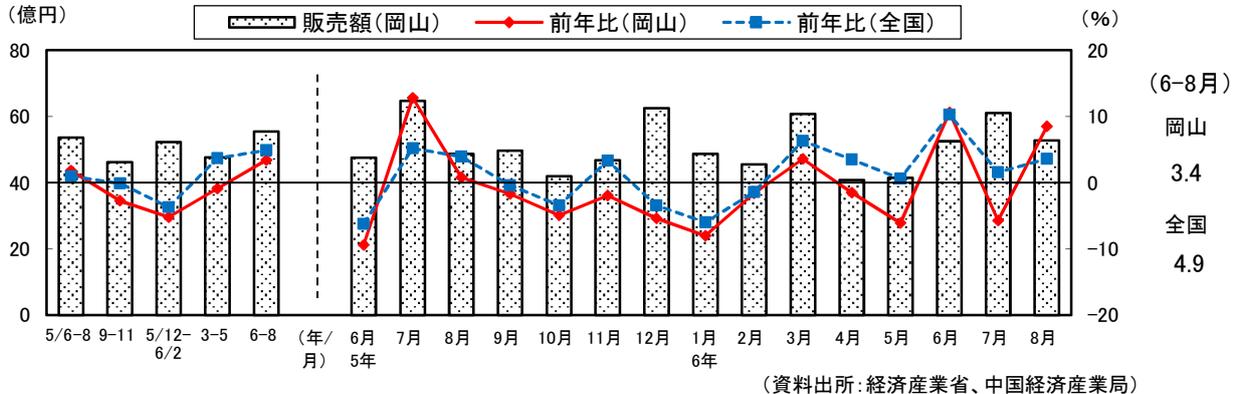
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比) (注)(1)~(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均



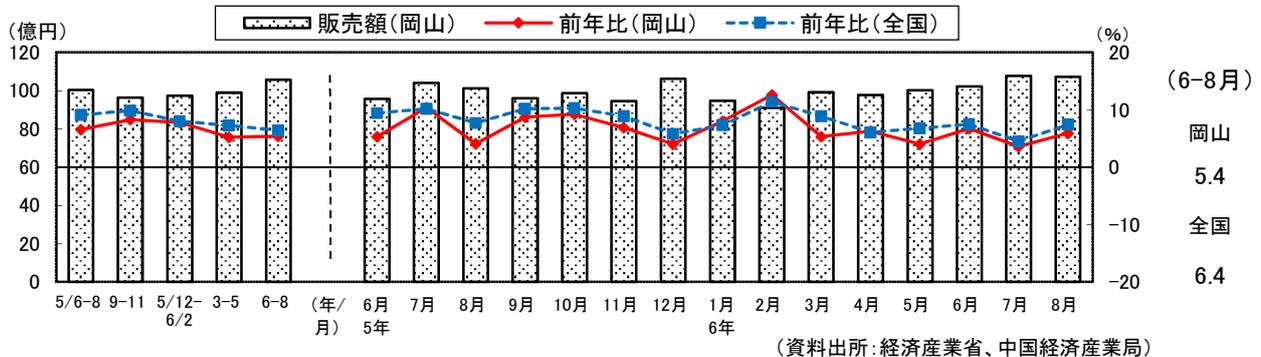
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



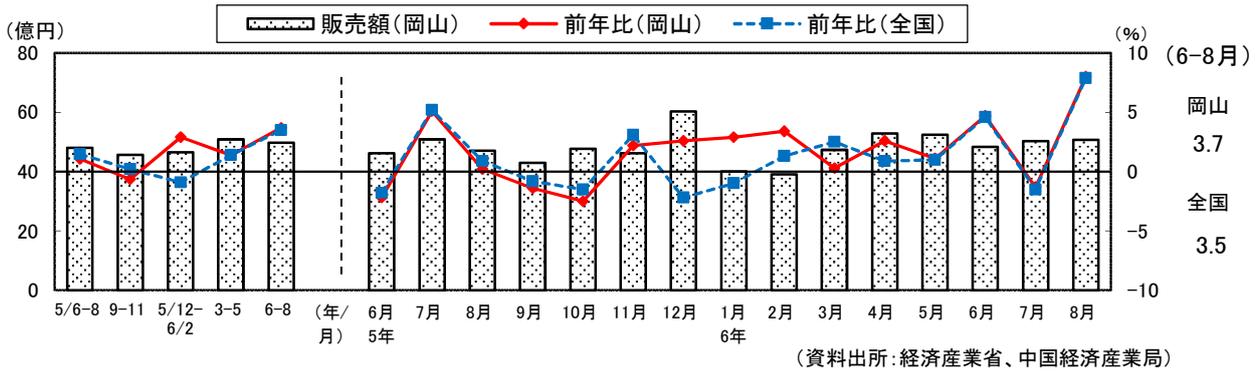
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



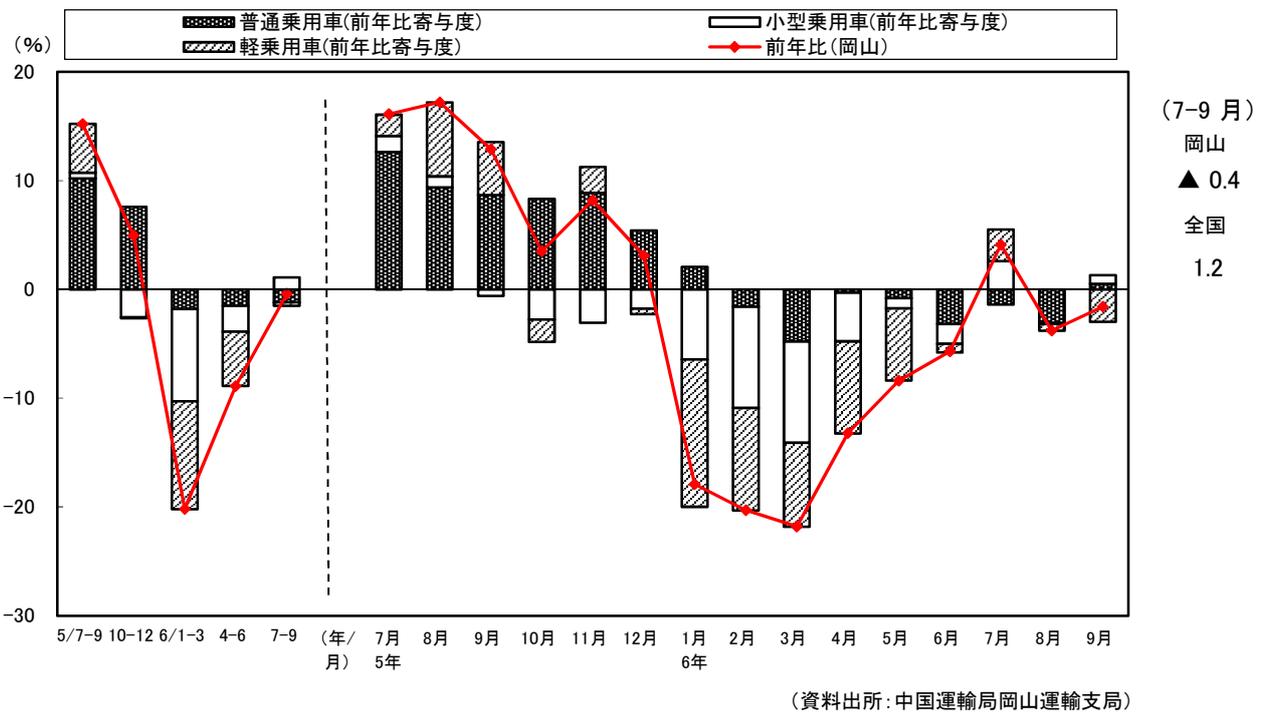
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



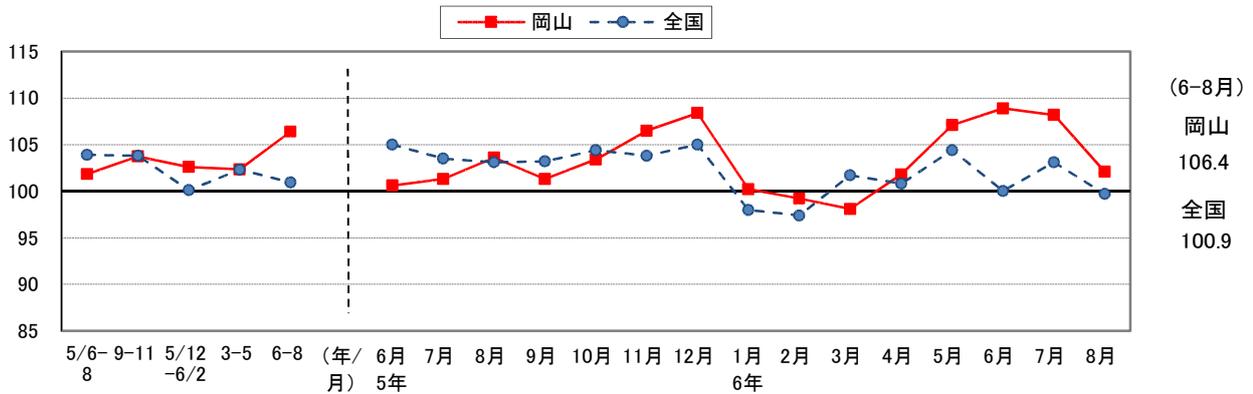
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2.生産活動 緩やかに持ち直しつつある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

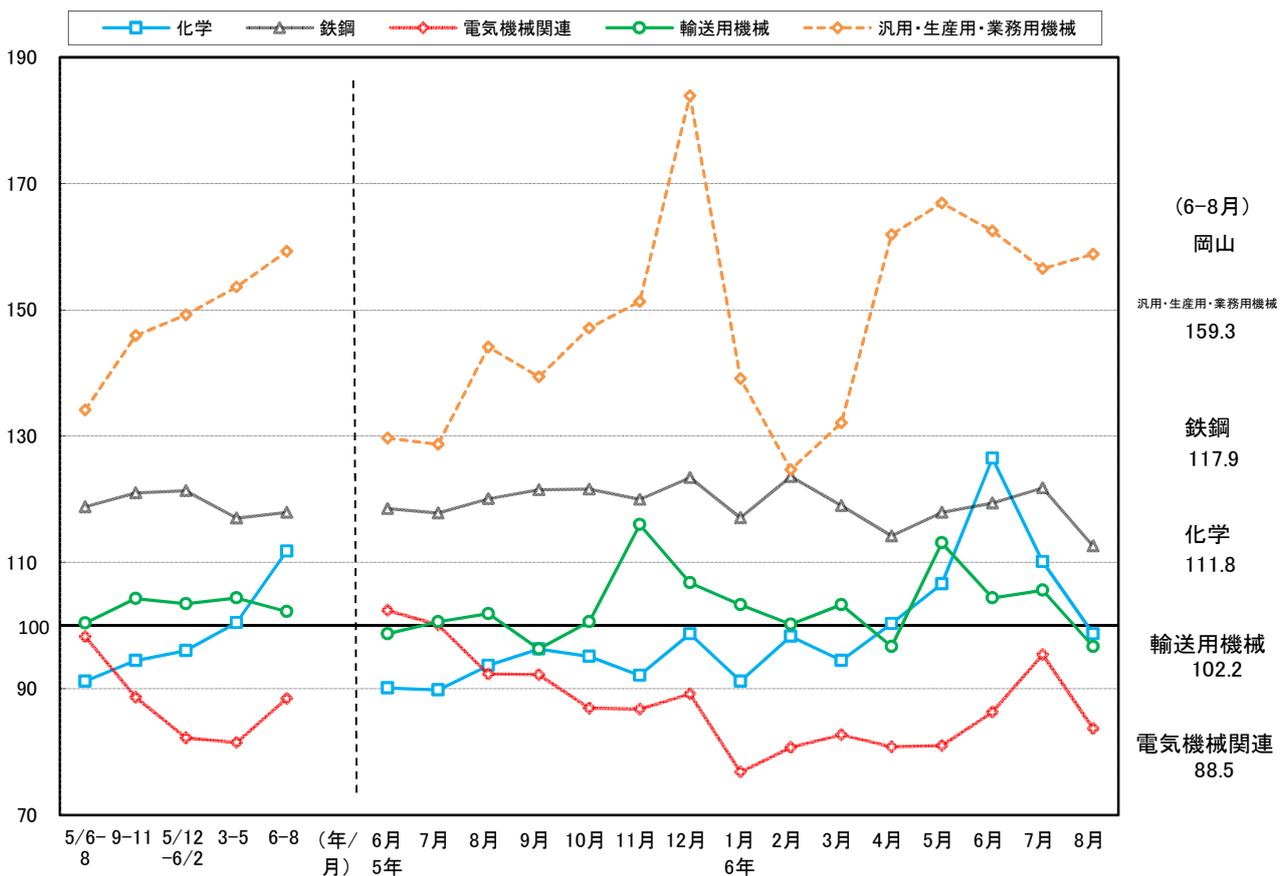
(指数)(令和2年=100)



(資料出所:経済産業省、岡山県)

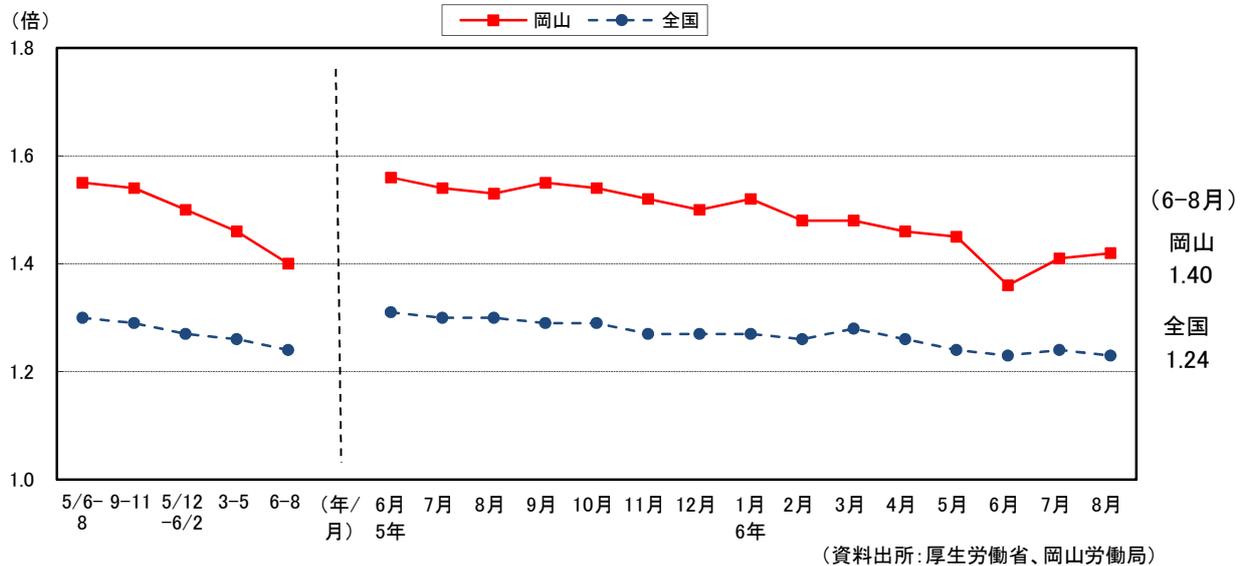
(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

(指数)(令和2年=100)

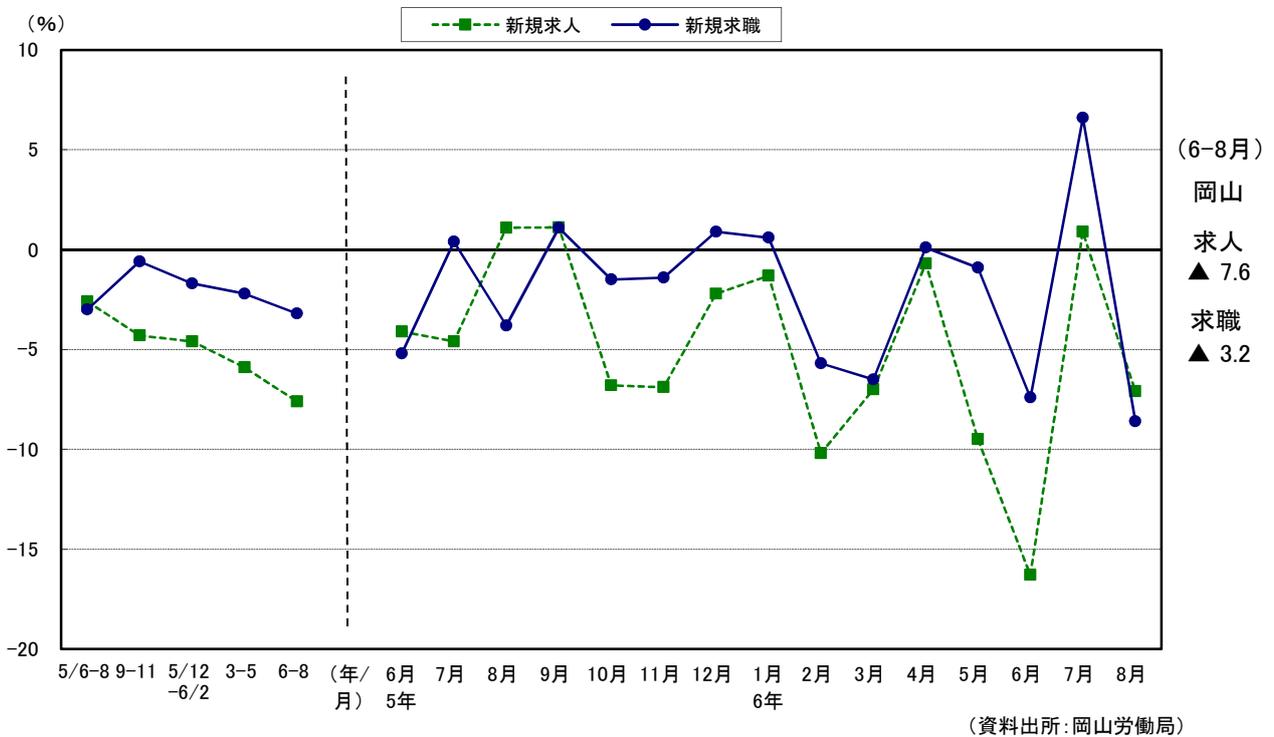


3.雇用情勢 改善のテンポが緩やかになっている

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



4.設備投資(除く土地、含むソフトウェア投資) 6年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率:%)

設備投資	全産業		製造業		非製造業	
	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)
6年度	(22.5)	18.3	(21.1)	7.2	(29.8)	52.8

(注)当所法人企業景気予測調査(6年7~9月期)結果
()書きは前回(6年4~6月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益(電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 6年度は増益見込み

(前年度比増減率:%)

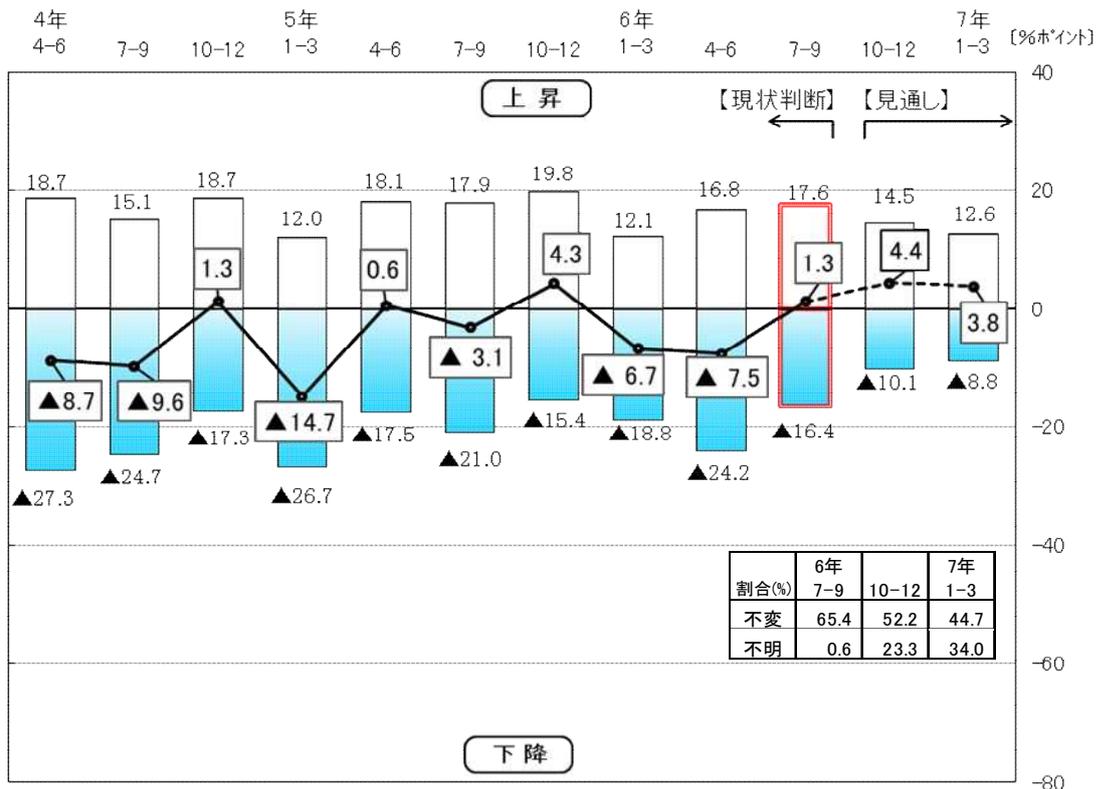
経常利益	全産業		製造業		非製造業	
	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)	(増減率)
6年度	(16.0)	12.9	(16.6)	31.2	(14.6)	▲ 7.3

(注)当所法人企業景気予測調査(6年7~9月期)結果
()書きは前回(6年4~6月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感 「上昇」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

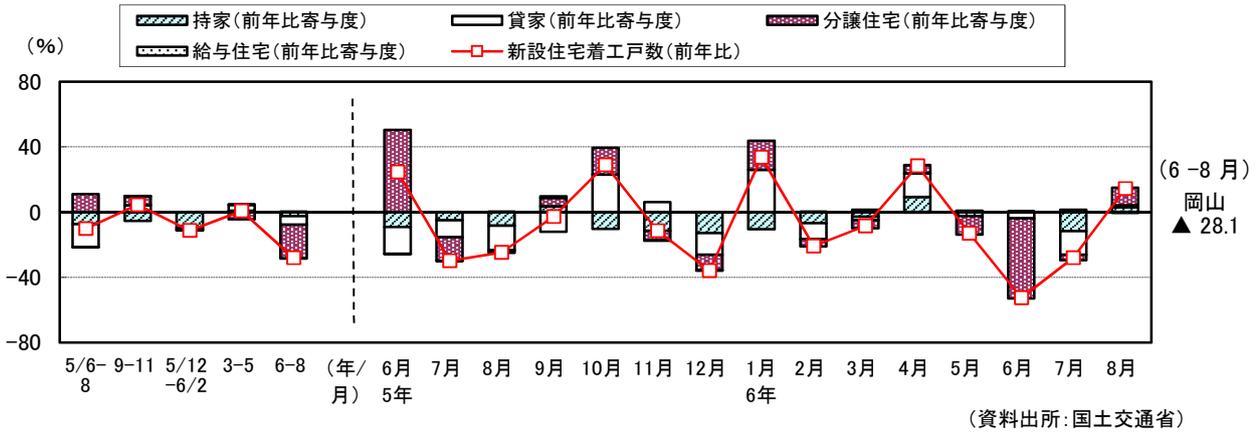


(注)当所法人企業景気予測調査(6年7~9月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

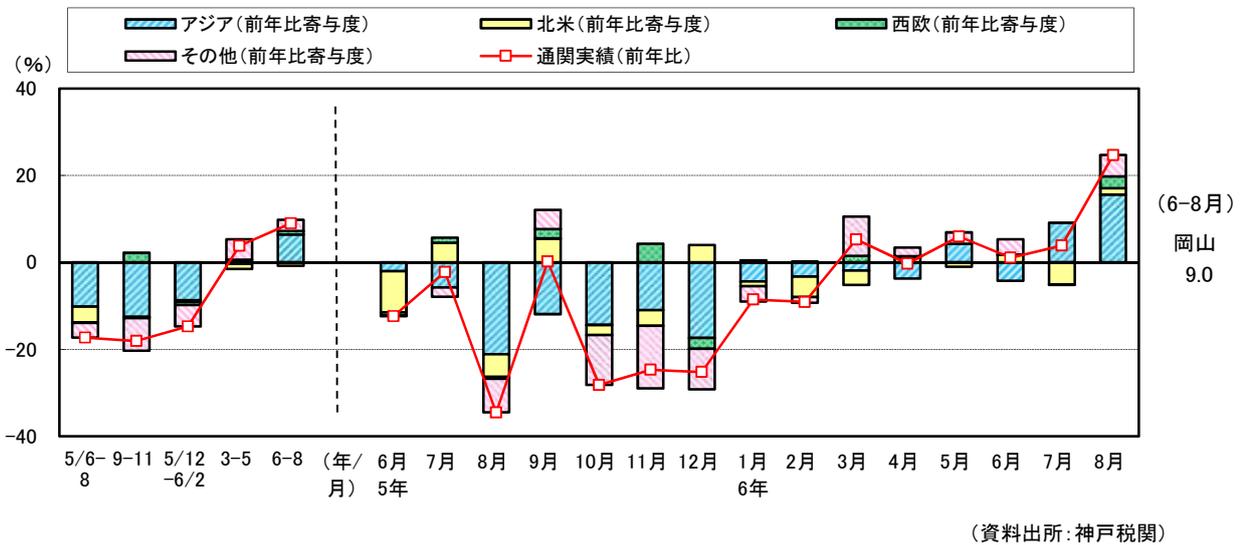
7.住宅建設 前年を下回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8.輸出 前年を上回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

